

～「行百里者半九十」最後の一步が未来を変える～

6月は、1年のちょうど真ん中に差しかかる時期です。新学期の緊張が少しずつほどこけ、学校生活にも慣れてきた頃でしょう。しかし同時に、疲れが出たり、やる気が落ちたりすることもあります。そんな皆さんに紹介したい中国の古いお話（故事）が「行百里者半九十（百里を歩く者は九十を半ばとす）」です。

これは、「百里の道を進むとき、九十里まで来ても、まだ半分だと思いなさい」という意味です。

一見すると厳しい言葉ですが、実は「最後まで気を抜かず、歩み続ければ必ず達成できる」という励ましの言葉でもあります。

4月からの皆さんの歩みを振り返ると、すでに多くのことを乗り越えてきたのではないのでしょうか。新しいクラス、新しい友達、新しい学び。慣れるまでに努力した日々は、まさに“九十里”に到達した証です。しかし、ここからの一步一步こそが、皆さんの成長を決める大切な時間です。

6月は雨の日が多く、気持ちが沈みがちになります。けれど、雨は植物を育て、空気をきれいにし、私たちの生活を支えてくれます。皆さんの心にも、雨のように静かに力を与えてくれる時間が必要です。焦らず、落ち着いて、自分のペースで進んでいきましょう。

勉強が思うようにいかない日があっても、部活動で壁にぶつかっても、それは努力している証拠です。壁は、挑戦している人にしか現れません。そして、壁を越えた先には、必ず新しい景色が待っています。

6月は、「もう少し頑張ってみよう」と思える月であってほしい。

百里の道の最後の十里には、皆さんの成長がぎゅっと詰まっています。

一步ずつ、確かに前へ。皆さんの歩みを、先生たちはいつも応援しています。